



Kenshin Fujiwara

藤原 健真

株式会社HACARUS
代表取締役CEO

【会社所在地】〒604-8151 京都府京都市中京区橋弁慶町227 第12長谷ビル5階A室

【事業紹介】少量のデータからの特徴量抽出に優れ、解釈性の高いスパースモデリング技術を利用した産業向けエッジAIと医療向け診断・治療支援AIの開発・提供。



【PROFILE】

1976年生まれ
カリフォルニア州立大学 コンピュータ・サイエンス学部卒業2014年
株式会社HACARUS 代表取締役CEO

【創業年】2014年

ソフトウェア開発者を父に持ち、10歳でプログラミングを始める。1995年に18歳で単身渡米。帰国後、ソニー・コンピュータエンタテインメントでPlayStationの開発に従事。以後、数社のITベンチャーをCTOとして共同創業。2010年から活動拠点を京都に移し、京都が持つ大学の技術と知財、ライフサイエンス・モノづくりの経験と知見、優秀な日本人学生と留学生、よその真似をしない独自のビジネス価値観、といった強みを再発見する。

【座右の銘】よそはよそ、うちのうち。

地球上の全ての人を

120歳までお連れする。

これをテクノロジーでどう実現するか。

きっかけは料理教室で10年ほど講師として働く妻との会話がきっかけでした。人間の健康の基本は食事である。このアイデアを元に管理栄養士のノウハウをAI化した食事指導サービスを立ち上げました。これがHACARUSの始まりです。「スパースモデリング」との出会いもまさにこの頃。少量のデータから特徴量抽出でき、解釈性に優れる同技術を機械学習に応用。働き手不足、健康寿命の延伸にAIを適用をすべく努力しています。

会社の特徴

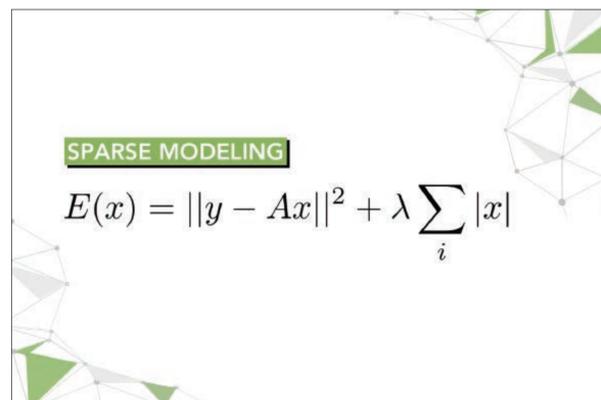
日本発の独自AIで世界の舞台で勝負。 産業・医療でのAIにブレークスルーを起こす。

HACARUSは京都を拠点に活動するAIベンチャーです。現在様々な分野で利用されるAI技術であるディープラーニングが抱える、AIの学習に膨大なデータが必要になる、AIの学習に大量の計算資源が必要になる、AIの意思決定の過程が人間には一切分からない、といった課題を克服するため、少量データで構築可能で解釈性に優れたスパースモデリング技術を応用した独自AIを開発しています。

事業・サービスの強み

学習と推論を同時に実行可能なエッジAI。 高い解釈性を持つ診断・治療支援AI。

ディープラーニングと比較して、HACARUSの独自AIは、データ量を100~1,000分の1、消費電力を1,000~2,000分の1に削減しながら、高い解釈性を実現します。これらの特性を利用して、学習・推論を同時に実行可能なエッジAIの開発、AIの意思決定の過程が解釈しやすい医療機関向け診断・治療支援AIの開発を行っています。独自AIは画像から時系列データまで対応し、特許出願も行っています。



▲スパースモデリング技術を応用した独自AI



▲学習・推論両対応のエッジ端末とモジュール